

講演①

私のドラッカー活用法——わが社のManagement Optimization

仙石通泰 (株三技協代表取締役)

弊社は、1965年の創業以来一貫して、テレコム系エンジニアリング会社として活動して参りましたが、限られた数の顧客に対する、下請け又は孫請けとしての労働提供型企业でありました。私は、弊社の代表取締役に就任した1992年以降、知識提供型企业へ変貌するにあたり、社員の意識改革と新規市場の開拓に努めて参りました。

社内の全ての業務を分解したドキュメントを、「サイバーマニュアル」と呼んでおります。これらは、ツリー構造上に展開し、現在では数万の「サイバーマニュアル」が存在致します。全てのコミュニケーションは関連の「サイバーマニュアル」を通じて行われており、社内の全ての知識が、全ての社員間で共有されています。弊社では、このシステムを総称して「オプティマイゼーションウェア」と呼んでおります。社員は自分が関与している業務と作業の最適化に努めることで会社全体の最適化に寄与することを自覚しています。

現在弊社は、携帯無線基地局とネットワークの構築に関わるプロジェクトを事業者及びメーカーから受注しております。それらのプロジェクトから発生するエンジニアリングサービスの受注も、事業者・メーカー・ゼネコン等から元請け、下請け、技術者派遣等の様々な立場で受注しております。下請けや派遣技術者として就労している社員からの現場情報は、全て「サイバーマニュアル」上で報告されております。これが、「サイバーマニュアル」の自己増殖とアップデート化をもたらしています。

弊社は、いかなる状況下でも、社員の解雇は行わず採用を欠かさないで参りました。

弊社は、顧客の経営・ビジネス・業務の最適化のための課題を顧客と共有し、提案を欠かさない企業になって参りました。

弊社の株主は、この企業方針を是としてさらなる期待をかけております。

弊社は、エコキャップキャンペーン参加や被災地への寄付と人材派遣等の社会活動を増やしております。

弊社には1,100名を超える社員がおりますが、総務部・人事部・経理部といった部署は存在しません。しかし、総務機能・人事機能・各種会計機能は数倍の充実度を誇っております。

これからも、ドラッカー哲学の教訓を活かして全ての難局と取り組んで参る所存でございます。

[プロフィール]

1967年 慶應義塾大学商学部卒 (在学中、米国サンホセ大学留学)

同年 ソニー(株)入社(株)ソニープラザ配属

日米貿易不均衡の改善に向けてソニーが始めた米国商品輸入政策の実現のために、ソニー企業(株)、Sony Corporation of America (8年)、ソニートレーディング(株)などにて商品開拓とマーケティングに従事。

1986年 (株)ソニープラザ取締役就任

1990年 (株)三技協取締役就任

1992年 (株)三技協代表取締役社長就任 (現在に至る)

全社員参画型の経営体質を最適にするため、徹底してICT環境の構築を行ってきた。

労働提供型企业から知識提供型企业へ変貌するため、独自のナレッジマネジメントシステム「Optimization-Ware」を開発し、経営のプラットフォームを構築した。2008年・2009年に

わたり、経済産業省より IT 経営百選最優秀企業の認定を受けた。

〈社外役職〉

- ・ (社) 神奈川経済同友会常任幹事
- ・ 神奈川ニュービジネス協議会理事
- ・ ビジネスプロセス革新協議会 (BPIA) 副会長
- ・ 情報産業三田会会長
- ・ 慶應義塾大学 SFC 研究所所員
- ・ NPO 柔道教育ソリダリティー理事

〈著書〉

『社員の「1 行報告」が会社を変える』かんき出版、2007 年

講演②

ぼくが気づいたドラッカー先生の文学者としての魅力

岩崎夏海（吉田正樹事務所）

「ドラッカー先生と世界の文豪に共通する三つの特徴」

ドラッカー先生の文章には、世界の文豪にも共通するいくつかの特徴が見受けられる。それらは、まとめると以下の三つとなる。

- 一、諧謔
- 二、技術
- 三、覚悟

これら三つの特徴を、『マネジメント』の中にある文章を例に引きながら、紹介していく。

[プロフィール]

1968年7月生まれ。東京都日野市出身。東京芸術大学建築科卒。大学卒業後、作詞家の秋元康氏に師事。放送作家として『とんねるずのみなさんのおかげです』『ダウンタウンのごっつええ感じ』等、テレビ番組の制作に参加。その後、アイドルグループAKB48のプロデュースなどにも携わる。現在は、作家として(株)吉田正樹事務所に所属。2009年12月、初めての作品となる『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』を著す。

講演③

ドラッカーにおける知識と社会——クリント・イーストウッドへの興味

三浦一郎（立命館大学経営学部教授）

はじめに——社会と知識社会をめぐって

1 クリント・イーストウッドの映画製作について¹

クリント・イーストウッド 俳優から俳優+監督・製作へ
作品の特徴

映画製作の特徴「撮りなおしをしない」「演技の指示をしない」

イーストウッドを取り巻く知識社会としての映画製作チーム

知識労働者たちに対するイーストウッドのマネジメント

2 知識社会と知識社会学²

さまざまな知識社会とドラッカーの言う知識社会

知識人たちによる知識社会と知識労働者たちによる知識社会

ドラッカーは知識社会の中から生れた

カール・マンハイムの知識社会学³

知識社会学的研究としての「シュタール論」『産業人の未来』『傍観者の冒険』

3 「社会転換の世紀」と『ポスト資本主義社会』における知識社会への転換の扱い

人口・就業構造の変化という視点

知識の意味の変化という視点

一握りの知識人+その他の多くの人々 → 多数派としての知識労働者の出現

知識社会の意味の根本的転換（ドラッカーの用語法）

大学・高等教育機関の役割・責任

知識労働者の生産性

知識労働者の教育と再教育

知識社会はバラ色の社会ではない：ドラッカーの懸念・ドラッカーの仕事

おわりに クリント・イーストウッドへの言及

作りたい作品を作り、顧客の創造によって、社会に貢献する

作品では、個人と社会・制度の緊張関係、正義と倫理が、追求されている

[プロフィール]

1950年生まれ。立命館大学経営学部教授。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学。

主要著書・論文：『顧客の創造と流通』（高菅出版、2010年、白珍尚との共編著）、「ドラッカーの周辺」（『ドラッカー学会年報 文明とマネジメント Vol.3』、2009年、所収）、「ドラッカーとレビット——レビットのドラッカー讃」（『ドラッカー学会年報 文明とマネジメント Vol.2』、2008年、所収）

¹ マイケル・ヘンリー・ウィルソン編、石原陽一郎訳『孤高の騎士クリント・イーストウッド』（フィルムアート社、2008年）に収録された、イーストウッドの多くの発言を参照。

² 上山安敏『神話と科学』（岩波現代文庫、2001年）におけるウェーバー・サークルの記述他、上山教授の一連の知識社会学的研究、参照。

³ カール・マンハイム『イデオロギーとユートピア』『保守主義的思考』等、参照。

講演④
知識労働者とその組織

柳井正（株ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

[プロフィール]

1949年、山口県生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、(株)ジャスコ（現・イオン株）勤務を経て、1971年に小郡商事株（現・(株)ファーストリテイリング）入社。1984年、広島市にカジュアルウエアショップ「ユニクロ」をオープンし、以降ユニクロを日本全国へ積極的に出店、日本最大規模のカジュアルウエアチェーンへと発展させる。2005年11月、ファーストリテイリングを持株会社へと移行。ユニクロのほか、傘下にGOVリテイリング、キャビン、リンク・セオリー・ホールディングス、ネルソンフィナンスなどを持つ、アパレル製造小売企業グループを形成する。ファーストリテイリングのステートメントである「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」の実現を目指す。